

宮荘町の秋を彩る

～宮荘フェスタ～

宮荘町は、人口863人、312世帯で、高齢化率約24.4%の自治会である。秋祭りの翌月の10月の第2月曜の「体育の日」に「宮荘フェスタ」が開催される。厳格で莊厳な神事とは趣が異なる、住民同士の和やかな交流風景が五箇神社の境内のあちこちに広がる、宮荘町の秋を彩るフェスティバルである。

1. 五箇神社と祭禮

宮荘町の氏神の五箇神社は、宮荘町の中心に位置する。令和元年（2019）12月に滋賀県指定有形文化財に指定された本殿は、安土桃山時代の文禄年間（1593年～1596年）に再建され、420年以上にわたり宮荘町の人々の暮らしを見守り続けている。

五箇神社では毎年4月15日に近い日曜日に春祭りが行われる。宵宮には住民総出で清掃をする。

そして、日本最大級の大神輿の御渡が、80人以上の担ぎ手によって勇ましく、盛大に行われる。大神輿は、安政4年（1857年）に造られたもので、長さ8.45m、高さ3.8m、幅1.8mを誇る。

秋祭りは9月15日に近い日曜日に行われ、



五箇神社

宵宮には大太鼓による御渡が行われる。

2. 宮荘フェスタの概要

秋祭りの翌月、10月の第2月曜の「体育の日」に「宮荘フェスタ」が開催される。

宮荘町では、運動会や文化祭をそれぞれ開催していたが、住民の誰もが参加できるようなイベントにしようと「宮荘フェスタ」（以下、フェスタ）に一体化した。

フェスタを主催するのは「宮荘まちづくりの会」である。「宮荘まちづくりの会」は、評議員や各種団体の方々39人で構成され、会長は年長者の評議員が務める。

毎年5月に企画委員会が開催され、フェスタ開催まで4～5回の会議を重ね、その年のフェ



模擬店の様子



模擬店の様子

フェスタの準備が進められる。資機材や食材の用意には宮莊町の企業からも全面的な協力がある。

フェスタ当日には、五箇神社の境内に模擬店が連なり、バザーも行われる。

厳格で荘厳な神事とは趣が異なる、住民同士の和気あいあいとした交流風景が境内のあちこちに広がる。

五箇神社に隣接する自治会館の広間では、子どもたちがゲームを楽しんだり、老若男女一緒にリズム音楽を楽しんだりする。

グランドゴルフ大会も行われ、この日に合わせて帰省した人を含め、宮莊町住民約200人が参加する。

今年（令和2年）はコロナ禍で中止となつたが、まさに、宮莊町の秋を彩るフェスティバルである。

3. 変化に対応しながら守り続ける

宮莊町では、自治会が中心となって、町を守り、育む活動が住民主体で展開されている。



池にはハリヨが泳いでいる

「ハリヨの里あれぢ」は埋め立てられた農業用池を、平成元年（1989）に「郷づくり事業」として住民総出で絶滅危惧種のハリヨが泳ぐ池を復活させた。現在は、清水をポンプで吸い上げ、大切に守り続けている。

五箇神社の隣に位置し、阿弥陀如来と大日如来の二尊を安置する「大日堂」は、「大日堂をお世話する会（宝光会）」のメンバーがボランティアで護り続けている。

五箇神社の美しい池に泳ぐ錦鯉は、自治会長OBがボランティアで世話を続けている。

宮莊町環境保全協議会が自治会と協力して、平成19年（2007）から宮莊川の両岸に植樹した約1000本の紫陽花は、毎年見事に花を咲かせる。五箇神社とともにJR西日本の観光コースにもなっている。

こうした営みを自治会で継続させるにはエネルギーが必要だ。

新興住宅は20軒ほど増加し、人口も増えているが、従来からの在所の中心地は少子高齢化で減少傾向となっているという。

自治会長の北村昌巳さんは、「時代と人がどんどん変わってきたことは事実。この変化に対応していくかといけない」と話す。

変化に対応しながら宮莊町を守り続ける。

宮莊フェスタが映し出す秋の彩りは、宮莊町という「財」（たから）を大切に想い、次代へと引き継いでいこうとする「想いと願い」が生み出す彩である。



大日堂